

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	大和メディカル株式会社	事業所名	看護小規模多機能かしの木
所在地	(〒 990 - 2483) 山形市上町四丁目 6 番 2 4 号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

看護小規模多機能の特性を生かし、訪問看護と連携しながら胃瘻や喀痰吸引、ウロストーマ等、医療ニーズの高い利用者も積極的に受け入れ、質の高い看護・介護の支援を行っている。在宅の利用者も徐々に増え、通い・泊り・訪問と小規模多機能ならではのサービス提供が行えるようになった。また、体調不良から要介護状態になったものの自宅に帰りたいという本人・家族の意向を踏まえ、ADLアップの支援を行い、在宅復帰まで導いたケースもあり、多様なニーズに答えられるよう日々努力している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2018 年 10 月 25 日	従業者等自己評価 実施人数	(10) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2018 年 3 月 8 日	出席人数 (合計)	(7) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (3 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (___ 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (___ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (___ 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (1 人) <input type="checkbox"/> その他 (___ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場環境の維持 ・研修情報の事業所内掲示継続 ・研修や資格取得の為のシフト調整の継続 ・入職者の育成計画は、到達目標、到達時期を明確にした計画を作成する ・事業所の理念を改めて皆で考えてみる ・記録等の回覧は、回覧印で目を通す習慣を身に着ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・議事録や会議録等の回覧 ・研修情報の掲示 ・研修や資格取得の為のシフト調整（介護福祉士実務者研修受講1名） ・事業計画に記載している事業所理念について確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年働きやすいが高評価なのは、職員同士の協力体制があるからではないか ・議事録に目を通す工夫（回覧印）を実行して改善したということなので、今後も目を通す意識を持って欲しい ・人手不足はどこ施設でも聞こえてくる、現場だけではどうにもならない問題なので上級部署ともよく相談して欲しい ・事業所理念を改めて振り返る作業は職員のためにもなったのではないかと 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項説明書やリーフレットを用いてサービスの特性、料金体系等の説明 ・利用者や家族の状況に応じた柔軟なサービスの組み立て ・サービス担当者会議は看護師、主任介護員や主任に準ずる立場の職員の参加を調整し、多職種によるプランを作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所用リーフレット作成 ・リーフレットを活用したサービス説明 ・訪問看護計画書についての学習 ・多職種によるサービス担当者会議の開催 ・利用者や家族の事情を汲んだプラン作成 ・重度化対応、緊急時、看取りのマニュアル整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所専用のリーフレットは説明以外にも近隣の病院や居宅に配布し、活用している ・重度化や看取りは今後の社会・地域の課題であり、マニュアル作りを施設で取り組んだことは評価できる ・多職種の会議は勿論だが、訪問看護計画書について学んだことは、お互いの仕事を理解するためにも必要
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師と介護員の連携は重要であると認識し、リーダー会議と共に特定行為業務等に関する会議を計画し、実施状況や介護員への教育も併せて行う ・緊急時の対応について家族の希望確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回看護職と介護職によるリーダー会議の継続 ・日常業務での報告、連絡、相談 ・緊急連絡カードの定期的な見直し（年2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応は、災害の多い昨今、地域も含めた対応を検討して欲しい ・看護職と介護職の意思疎通がスムーズになっているのはいいこと、今後も職種の違いを越えて協力して欲しい

		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡カードの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応について家族の希望を確認する 	
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢者社会、多死社会を迎える今後の社会において、看護小規模多機能に期待されること等、研修を通じて意識改革を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能及び看護小規模多機能の在り方について学ぶ(全国小規模多機能型居宅介護事業所連絡会の研修から伝達研修) ・訪問看護の外部訪問について知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク連絡会の資料を活用し、自分たちに出来ることを考える作業は、職員にとって地域を考える機会になったのでは ・全国の小多機や看多機の取り組みを聞くことは、自分たちの事業を考えるきっかけになったと思う
III. 結果評価 (評価項目 42~44)		<ul style="list-style-type: none"> ・出来ていることを継続する ・看護師、介護員の立場の違いを理解しながら、話し合いを通じて連携を強化する ・在宅を支えるサービスであると認識し、外に目を向け、その為の研修を計画する 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状できていることを継続する ・様々なニーズに対応する為、多職種の連携を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会等を行い前向きに取り組んでいる。包括出前講座は職員の評判がよかったようなので、また機会を作って欲しい ・経験年数のある職員は技術力が高く、新任者は見習うように指導すると良いのでは。企業は人材が宝、育成に力を注いで欲しい ・「できている」の項目が増えているように感じる ・在宅介護は家族の覚悟も必要だが、職員の覚悟も必要、自分の考えや意見を持って仕事に取り組んで欲しい

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年職場の働きやすさが高評価なので、職員協力して今後も働きやすさを継続して欲しい ・ 事業所理念を振り返る作業を通じて、今後、事業所がどのような方向性を持って支援していくのかを看護師、介護員含めて考えること ・ 中堅層の職員が多いため、一方が指導するというより、OJTの中で共に成長できるよう指導をして欲しい ・ 第二地区の避難行動支援制度の登録者は約 10 名程度、施設と避難協定を結んでいる為、今後は合同避難訓練や災害時の具体的な行動を一緒に考え、検討する機会があると良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働きやすい職場環境の継続（都合に応じた柔軟なシフトと業務分担） ・ 慢性的な人員不足の改善 ・ 言葉遣いや職務等、接遇や倫理に関する研修 ・ 自らの勤務態度を振り返る為の介護員会議の開催（年 1 回程度） ・ 施設全体で新しい人事評価システム導入予定の為、内容をみながら事業所における育成計画を検討する（連動する形で考えられないか？） ・ 施設全体で災害対策委員会が発足、その中で地域と合同で出来る避難訓練等も検討事項として提案 ・ 事業所便りの毎月発行（今年 1 月から試験的に作成、各利用者に配布） 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護、介護合同の話し合いを通じて、意思の統一や情報の共有ができていることは良いこと ・ 本人や家族の意向を汲み取った支援ができていて、また生活機能の維持・向上では、実際に在宅に戻ったケースもあり、自立支援が行えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス担当者会議や新規の初回面談等、看護師、介護員の同行の継続 ・ 本人や家族の要望に応えられるように、アセスメントに基づいたプランの組み立て、支援内容の検討（自立支援） ・ 全利用者に対して「人生の最終段階における医療・ケアについての事前確認書」による意思確認
<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主治医との連携は、看護師や管理者を経由した情報提供が通常で、現場の職員は細目な観察と報告を行うことが役割分担である ・ 推進会議では様々な意見交換ができており、地域の方を積極的に支援しようと取り組んでいることが分る、災害時の意見に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師・介護員リーダー会議（月 1 回）の継続 ・ 特定行為業務等関係者会議の継続 ・ 必要な機関への相談、報告等は今後も継続 ・ 看取りのカンファレンス、ケース検討会の随時開催 ・ 運営推進会議における情報交換、情報提供を通じて事業所の 	

		も通じるが、事業所と地域のお互いが協力できることを考えてやっていきたい	関わりを検討する
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	<ul style="list-style-type: none"> ・看多機のような事業所は地域の資源である、自治会や地区の総会等で事業所の特色を説明する機会があってもいい、そこからボランティア等をしたい方は話し相手やお茶のみ等、気軽に行ける関係になれるのではないか ・訪問看護が地域のサロン等に出向き、健康相談等できるといい、看護師にもどんどん地域に出て欲しい ・地域にニーズがあれば、フロアを開放した定期的なサロンの開催も検討できないか? 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護の積極的な支援 ・利用者、家族の思いを傾聴しながら、介護指導、助言の実施 ・ケースを通じた地域との関わりや、サロン、総会等と関わり地域とのコミュニティを形成する ・施設を開放したサロンの定期的開催（関係機関と相談の上）
III. 結果評価 (評価項目 42~44)		<ul style="list-style-type: none"> ・看多機として、例えば看取りの支援等、家族の覚悟も必要だが、職員も覚悟が必要。心意気ではないが、日々学びながら利用者と家族を支えられる事業所であって欲しい ・「できている」の項目が増え、年々進化しているように感じ、地域の方々の意識も高まっていると思う、今回の評価を糧に更に進歩して欲しい ・災害時の避難訓練、避難誘導等、地域との活動を是非検討して欲しい ・人材育成と共に人員補充は上級部署と相談していくこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な勉強会や働きやすい職場環境等、研修情報の掲示、看護介護の会議等、出来ている事は今後も継続 ・サロンの定期開催に向けた関係機関との協議、相談 ・事業所便り（かしの木便り）の定期発行 ・地域を交えた避難訓練や災害時対応の協議 ・推進会議等を通じた地域情報の把握 ・訪問看護による地域向け健康相談の開催（包括等とニーズを把握して） ・人材育成の計画（人事評価制度）と人員の補充、人材育成に関する研修への参加

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		8	6		<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムは、自らも学ぶ姿勢を持つことが必要 ・地域包括支援センターの出前講座がとても好評だった、機をみてまた企画しては ・在宅看取りは今後の課題、家族と共に職員の覚悟も必要 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	2	10	2		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所理念を改めて振り返る作業は職員のためにもなったのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		4	8	2	<ul style="list-style-type: none"> ・中堅層の職員が多い為、一方が指導するというより、共に学び成長していけるよう 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画な

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
		人事評価はあるが、その他の具体的なものが無い、新人だけでなく経験年数に応じて振り返るような機会や指導が欲しい				○ J T を活用していくこと	<p>どを作成している場合は「よくできている」</p> <p>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</p>
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	1	6	4	3	・出来ていることを継続して下さい	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容] 無回答1</p> <p>研修を受ける機会を十分に作ってもらっている</p> <p>研修情報が事業所内に掲示されているが、自発的に参加する意識が低い</p>					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	1	10	4		・看護師、介護員のディスカッションの機会が増えている、連携無くして仕事は成り立たない、お互いの共通理解の為に話し合いの機会は今後も継続して下さい	<p>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>以前よりも看護師を巻き込んで話し合いや情報を共有する機会が増えている</p> <p>看護師間で意見が違う時がある</p> <p>情報共有の機会はあるが、個々がきちんと把握していないように感じる</p>					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		9	5	1	・出来ていることを継続して下さい	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>推進会議で議題に上がったことは会議等で伝達したり、議事録やホームページで</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		閲覧できるようになっている 議事録はみられるようになっているが、 全てのスタッフが毎回目を通していない					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		11	4		・ 働きやすい職場環境は毎回高評価なので、職員同士協力しあい、この環境を維持して下さい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
〔具体的な状況・取組内容〕 急な勤務変更や休みに対応している 以前よりも報連相ができています 無駄な残業が少ない 主任を中心に安心して働ける環境づくりに努めている 一人一人の行動や感情がバラバラな気がする							
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	2	12			・ 出来ていることを継続して下さい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
〔具体的な状況・取組内容〕 無回答1 利用者情報の更新はスムーズに行えている 申し送りの他にケース記録、連絡ノートを活用し、日勤リーダーを中心にもれなく伝達するようにしている シフトの兼ね合いでうまく伝わらないことがある							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		12	3		<ul style="list-style-type: none"> ・出来ていることを継続して下さい ・事故があった場合の対策をきちんと講じている 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	1	10	4		<ul style="list-style-type: none"> ・出来ていることを継続して下さい ・災害時に地域と協力していくために、合同の避難訓練等、災害時の対応を地域と一緒に活動・検討する機会を設けて欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を	1	10	4		<ul style="list-style-type: none"> ・出来ていることを継続して下さい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている					急な宿泊や訪問等柔軟に対応できている 在宅利用者が増え、柔軟な対応ができるように計画されている 利用者の変化があればケアマネに都度報告している	<p>足度を評価します</p> <p>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</p>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		7	8		<p>・出来ていることを継続して下さい</p> <p>・看護師毎に意見が違うのであれば、お互い話し合っ理解していくしかないと思う</p>	<p>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</p>
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		10	4		<p>・出来ていることを継続して下さい</p> <p>・機能アップして連泊から在宅復帰に導いたケースは現場にとっても自信になったのでは。自立支援の観点を持って今後も支援して欲しい。</p>	<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
14	○ 利用者の有する能力を最大	1	9	4		<p>・出来ていることを継続して</p>	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できていな い		
	限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	[具体的な状況・取組内容] 無回答1 会話や声がけなど、日常の関わりで回復向上の支援ができています 簡単な機能訓練程度しかできていない ポジショニングや運動の仕方等、理学療法士に相談できる環境にある 計画作成はケアマネが行っている				下さい	心身機能の維持回復を重視した計画の作成について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	2	8	3	1	・出来ていることを継続して 下さい	✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		13	2		・出来ていることを継続して 下さい	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 変化があった時は報告や話し合いをし、計画見直し、変更している 早期発見と言われると難しい 自分の立場では情報収集の段階					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	2	9	4		・出来ていることを継続して下さい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 過度な偏りは無い 訪問することで生活状況が把握できる 家族から意向等を聴き取りし変化があれば都度相談している 把握しているが、まだ足りないと思う					
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	1	6	7	1	・役割分担という意味で、主治医への報告や指示受けは看護師や管理者が中心になるのは致し方なく、現場で出来ることは細目な観察と報告に尽きるのでは	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 管理者や看護師任せになっている 主治医との情報共有は十分と感じない 主治医や多職種の考えが見えない					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		13	2		・役割分担も必要だが、介護員が判断する場面、緊急を要する場面では特に必要になってくる	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> なんでも看護師に指示を仰ぐのではなく介護職で判断できるところはするようにしたい 役割分担があいまいになるときがある 状況に応じて急変等にも柔軟に対応して					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		いると思う 相談しながらできていると思うが、自分 自身をもっと学ばなければならない					担や、業務の状況等に応じた柔軟な 役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介 護職と看護職が互いに情報 を共有し対応策を検討する など、両職種間の連携が行わ れている	1	11	3		・看護師との会議や話し合 いの場が増え、改善した項目な ので、今後も継続して下さい	✓ 「介護職と看護職の情報共有およ び対応策の検討」について、充足度 を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 都度、情報交換や看護師との会議で共有 できている 上手く伝わらないことがあり、伝達方法 に工夫が必要					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、 疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復など の観点から、情報提供や提案 等を行っている		13	2		・出来ていることを継続して 下さい	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護 職への情報提供や提案等」につい て、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看 護職の専門性を活かした役割の1 つとして期待されます
		[具体的な状況・取組内容] 看護師が疾病予防や病状予測など情報提 供や提案をしてくれる 看護師によって言う事が違い対応に困る ので、考えや対応を統一して欲しい					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく説 明し、利用者等の理解を得て いる	1	11	2		・出来ていることを継続して 下さい	✓ 「利用者等の理解」について、充足 度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 無回答1 分かり易い説明を心がけているが、説明の メインは管理者になっている 質問があった時は自分よりも上級職員に 確認してから説明するようにしている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	8	4	1	・出来ていることを継続して下さい	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 無回答1 管理者や主任任せになっている 説明はしているが利用者の理解度は不明 自分自身は計画の説明等に直接携わっていない					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	9	1	3	・出来ていることを継続して下さい	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 無回答1 利用者や家族が直接取り扱うことが少ないが、聞かれたときは説明している 管理者や主任等が主に関わり、自分自身は係わっていない					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		11	2	1	・出来ていることを継続して下さい	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 無回答1 希望があれば管理者が中心になって計画し、意向に沿った支援をしている 本人や家族の意向に沿えるように努力している 個人的に計画作成に直接関わっていない					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検	1	8	4	1	・出来ていることを継続して	✓ 「将来に発生し得る様々なリスク

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	[具体的な状況・取組内容] 無回答1 家族も含めて相談し、対応できている 管理者やケアマネ、主任に任せている 利用者と個人的に相談する機会がない				下さい	を想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	5	6	2	1	<p>・在宅の看取りが病院や社会の流れになり、看多機に求められる役割は大きい、しかし人員という面からも現場の負担を考えると、受け入れには難しい判断が伴う</p> <p>・家族の覚悟もそうだが、在宅を支えるという職員の覚悟や心意気が必要だと思う</p>	<p>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	2	8	3	1	<p>・出来ていることを継続して下さい</p>	<p>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		管理者や看護師が全て対応しており、個人的な関わりはない					
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	2	8	3	2	・出来ていることを継続して下さい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
		[具体的な状況・取組内容] 緊急時対応カードを作成している 主治医と直接相談することなく、管理者や看護師を通じて相談している 主治医と個人的に直接係わることがない					
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	2	9	2	1	・出来ていることを継続して下さい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] 無回答1 緊急時対応カードを作成し、連絡先や関係先の体制を明示している 看護師による 24h オンコール体制で急変時にも対応できる 管理者や看護師が全て対応し、個人的に直接連絡することがない					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利	1	4	6	2	・地域に足を運ぶこと、例え	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	<p>ユーザーのために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている</p>	<p>[具体的な状況・取組内容] 無回答2 推進会議の中で支援内容、活動内容、事故報告等をしている 管理者や主任が主に活動しており、個人的な関わりが無い</p>				<p>ば総会や地域のサロンに出向き、事業所を紹介し知ってもらうこと、訪問看護としても同様で、サロン等で健康相談の活動も地域貢献に繋がっているのでは？</p>	<p>保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	<p>○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている</p>	3	8	2		<p>・出来ていることを継続して下さい</p>	<p>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容] 無回答2 議事録が誰でも閲覧できる他、会議等で伝達している ホームページにアップしている 個人的に見る機会がない</p>					
33	<p>○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている</p>		7	6	1	<p>・出来ていることを継続して下さい</p>	<p>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</p> <p>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</p> <p>✓ 利用者や職員の確保のみを目的と</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容] 無回答1 広報誌の作成、広報誌の内容がホームページでみることができる 以前より地域交流が増えていると思う 個人的に関わりが無い</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							した活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		4	5	4	・出来ていることを継続して下さい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	5	9			・出来ていることを継続して下さい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
							きている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1		3	10	・ 出来ていることを継続して下さい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>【具体的な状況・取組内容】 無回答1</p> <p>前例がない（ニップは受け入れているが）受け入れできるのか分らない</p> <p>現時点では人工呼吸器の受け入れはしないという施設方針である（ハード面で受け入れ出来ない）</p>					
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	10	3		・ 出来ていることを継続して下さい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
		<p>【具体的な状況・取組内容】 無回答1</p> <p>多職種と協力し受け入れしている</p> <p>看取りに関するマニュアルがあり受け入れ体制がある</p> <p>積極的と言われると良く分らないが、受け入れ体制はあると思う</p>					
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容			11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出来ていることを継続して下さい ・ 地域包括ケアシステムの理解は自ら学ぶ意識で取り組 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべ
		<p>【具体的な状況・取組内容】 無回答2</p> <p>理解できていない</p> <p>自ら学ぼうとする姿勢がなかった</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	等について理解している	法改正に把握が追いつかない 個人的に良く分らない				<p>んで欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前好評を博した包括出前講座をまた検討しては？ 	<p>き役割を、明確に理解することが必要であるといえます</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	2	5	6	1	<p>・出来ていることを継続して下さい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		2	5	7	<p>・出来ていることを継続して下さい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
							改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		2	8	4	・地域の介護教室で年2回、施設を利用している、今後、地域にニーズがあれば、定期的なサロン（100歳体操）を検討してみてもどうか	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] 無回答1 家族へ介護指導を行ったケースがある 施設を開放し、地域住民向けの介護教室等を行っているが、他の具体的な活動はないように思う 利用者や家族、近隣住民への働きかけは不十分 そのような取り組みはしていない 管理者任せで個人的な関わりは無い					
番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価							
① 計画目標の達成							
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている⇒回答数9 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている⇒回答数4 4. 利用者の1/3には満たない				・出来ていることを継続して下さい	✓ 「計画目標の達成」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		【具体的な状況・取組内容】 無回答 2 目標達成はこれくらいの割合だと思う 達成されているのかどうかよく分らない					
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感							
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている⇒回答数 3 2. 利用者の 2/3 くらいについて、達成されている⇒回答数 8 3. 利用者の 1/3 くらいについて、達成されている⇒回答数 2 4. 利用者の 1/3 には満たない⇒回答数 1 【具体的な状況・取組内容】 無回答 1 医療が必要な方でも積極的に受け入れ、安心感に繋がっている 看護師のオンコール体制で家族は勿論だが、職員も安心して対応できる どこまで安心が得られているのか分らない				・ 出来ていることを継続して下さい	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている⇒回答数 3 2. 利用者の 2/3 くらいについて、達成されている⇒回答数 3 3. 利用者の 1/3 くらいについて、達成されている⇒回答数 2 4. 利用者の 1/3 には満たない⇒回答数 4 5. 看取りの希望者はいない⇒回答数 1				・ 社会の流れは「在宅」であり、在宅の看取りもその一つ、看多機だからできることを考え、職員もスキルアップをして欲しい	✓ 在宅での看取りを希望する ✓ 利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>[具体的な状況・取組内容] 無回答 2</p> <p>管理者やケアマネが家族としっかり話し合っているため、家族は安心だと思える</p> <p>看取りの対象者はほぼ全てで取り組み出来た</p> <p>対象となる方が 1/3 程度で、その中では達成できている</p> <p>連泊やホーム入居の看取りが殆どで、自宅の看取り希望がない</p>					<p>い・泊まり) での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>